

## 伏見南浜だより

笑顔 かがやく 南浜の子 ~つながり続け、豊かに学び表現する姿をめざして~



京都市立伏見南浜小学校 校長 今西 隆浩  
TEL 075-611-0091 FAX 075-611-5107  
minamihama-s@edu.city.kyoto.jp



1月は「いく」、2月は「にげる」、3月は「さる」。今年もあと2か月ほどとなりました。各学年では、それぞれに今年1年のまとめの学習に取り組んでいます。先日、1月12日～20日に、3・4年生ではプレジョイントプログラム、5・6年生ではジョイントプログラムのテストを行いました。これは、子どもたちが学習内容を自分で計画的に総復習し、その達成状況を定期的に確認することを通して、一人一人の課題を解消し、確かな学力の向上につなげることを支援する、京都市独自のプログラムです。

3月初旬ごろには、結果を返却します。子どもたちの学習状況を把握し、次の学年へとジョイント(つなぐ)できるよう、学校と家庭とそれぞれの立場で、子どもたちを支えていけたらと思っています。

令和3年5月27日実施の全国学力学習状況調査(6年生)の結果をまとめました。今後の「自学自習」の参考にさせていただけたらと思います。

## 【令和3年5月27日(木)実施 6年生 全国学力学習状況調査の結果より】

本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査もあわせて実施されました。昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況や臨時休校の影響で実施されなかったため、2年ぶりの「学力学習状況調査」となりました。

生活習慣と学力との関係など、本校児童の状況をご報告させていただき、今後の学校・家庭・地域を含めた教育力向上を目指していきたいと思っております。

尚、「学力状況調査」の結果は、特定の学年かつ学力の一部であること、学校における教育活動の側面であることなどを踏まえ、詳細な数値の公表は行いませんので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



## テスト総合結果(国語・算数)

テスト内容において意識されているのは、6年生までに身につけておきたい内容であり、実生活において必要とされるものであり、また、実生活において様々な課題解決のために活用されるための力が確かなものとなっているかです。

国語、算数ともに、平均正答率は、全国平均を上回り、良好な結果でした。無回答率も、2教科とも全体を通して低く、ジョイントプログラムもそうですが、本校児童の特徴である粘り強く問題と向き合う力を感じることができました。今後もさらに高みを目指し、子どもたちの力を伸ばしていきたいと思っております。

## 【国語】

全体的によくできています。

問題ごとで見ると、特に正答率が高かったのは、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」に関する問題で、全国平均を8ポイント近く上回っています。これは、帯の時間「朝のさわやかタイム」で取り組んでいる読書や、毎日の家庭学習で行っている音読の成果の表れではないかと考えられます。特に、音読については、声を出して読むことで読解力も向上するといわれています。これは、音読するためには、言葉の意味や文脈の流れなどを意識し、文章の切れ目を考えながら読む必要があるためです。さらには、目で文字を追いつつ、同時にその文章を耳で聞くことで、さらなる読解力の向上が見られ、書かれている内容への理解が深まります。今後も学校図書館などを活用して、たくさんの方に触れる機会を積極的に作っていききたいと思います。

一方で、課題については、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に関する問題については、3設問中2問が9割近くの正答率でしたが、残りの1問は、全国平均を上回っているものの約6割の正答率でした。繰り返し学習するなど、既習漢字のより正確な習熟が求められます。

また、問題の解答形式で見ると、記述式で答える問題は全国平均を9ポイント近く上回っているものの本校の正答率は約5割ほどでした。目的や意図に応じて、理由や根拠を基に分かりやすく自分の考えを表現することや、文章の中心となる語や文を見つけて要約することに課題があると考えられます。授業の中では、各教科等で学習の目的に応じて、図表やグラフから読み取った情報を言葉にすることを意識的に取り入れています。そして、「100文字作文」など発達段階に応じた字数を設定し、目的に合った文章を書きまとめ、ペアやグループで交流し、自分の考えが伝わるか確かめ合う機会を取り入れています。今後も引き続き、工夫しながら、本校の目指す資質・能力である「表現力」を育てていきたいと思っております。

## 家庭学習におけるポイント

文の中の主語と述語の関係や修飾と被修飾語との関係など捉えたりするなど言葉の特徴や使い方に関する事項については、読書や音読をすることが有効です。

漢字は、昨今のICTの普及により、書く機会が少なくなっていますが、漢字のよめ・はね・はらいなどに気を付けて、繰り返し練習をすることが大切です。

多様な文章を的確に読み取る力をつけるには、読書の幅を広げることが大切です。そうすることで語彙力が増え、言葉や文章に込められた意味をより深く理解することができます。また、図書や新聞などを読むことを通して、作品や話題を「要約」することも有効です。「要約」することで、話の重要なポイントをしっかりと読み取り、まとめる力が身につきます。

## 【算数】

全体的によくできています。

問題ごとで見ると、「三角形の面積の求め方について理解している」に関する問題の正答率は大変高く、全国平均を20ポイント上回っています。また、「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」に関する問題についても、全国平均を10ポイント以上上回り、本校だけでも9割以上の正答率でした。このように10ポイント以上上回っていた問題が4問、5ポイント以上上回っていた問題が4問と、高い正答率でした。これは、本校が長年「算数科」で研究していた成果の表れではないかと思っております。「課題把握→自力解決→集団解決→まとめ→応用→振り返り」という学習形態を確立していること。また、本校では今年度、子どもたちにつけたい資質・能力を「基礎力」「つながり力」「表現力」としていますが、帯の時間「ぐんぐんタイム」などでのGIGA端末を活用しての個々の力に応じた問題への取組や、「自分も分かり、友だちも分かる」ようにするための「つながりタイム」の取組、そして、問題を、図、式、言葉に関連付けて考える取組などが有効であったと考えられます。

一方で、課題は、国語のテストと同様の問題形式で、記述式で答える問題です。全16問中4問の平均正答率は、全国平均を8ポイントほど上回っているものの、正答率は約6割でした。今後も本校の研究してきた取組を継続しつつ、根拠をもとに筋道立てて考えを説明し、学んだことを自分の言葉で伝えていく「表現力」をつけていきたいと思っております。

## 家庭学習におけるポイント

各学年で履修する学習を確実に獲得することが大切です。計算については、計算手順が正しく身につくよう、毎日楽しみながら少しずつでも計算問題に取り組むことが有効です。筆算は、位をそろえて書くことなど、まずは速さより正しくできるようにし、慣れてくれば少しずつスピードを上げて練習していきます。また、間違えた問題については、やり直しをし、繰り返し練習をしていくことが大切です。

文章問題や図形、グラフ等のデータの活用に関する問題については、問題の内容を的確に読み取り、言葉や図などを関連付けて、根拠をもとに筋道立てて説明する力が求められます。算数の学習を日常生活の場面に即して考えることが重要です。

学年が上がるにつれて、筋道立てて考える論理的な学習内容の学習や抽象的な学習内容が増えてきます。自分で課題を見つけ、解決していく力がついていこう、「急がば回れ」の気持ちで、毎日少しずつでも、机に向かい既習学習を繰り返し練習する「自学自習」の力がついていけるよう、ご家庭でも見守っていただければと思います。